



葉たばこ乾燥の応用技術の世界へ

三州産業株式会社
製造部技術課長 迫畑 武志

三州産業は、昭和23年鹿児島県の葉たばこ農家に耕作資材を提供する会社として誕生しました。維新150年に当たる本年、当社にとっても創業70年という節目の年を迎えました。その歴史の流れの中に身を置けることを誇らしく思っております。

さて、かつてタバコの葉の乾燥は、乾燥ムロに吊るし約5日間寝ずの番をして火を焚き乾かしたという過酷な労働を伴うものでした。三州産業のスタートは、ここに熱配給用の鋼管を提供することで始まりました。その後バルク乾燥機、熱源としての化石燃料バーナーの提供、全自動乾燥を可能にした制御機器の開発を行い、ユーザーである耕作者の皆様の負担軽減に取り組み、高品質な製品生産に寄与する製品を提供して参りました。また、機械生産のみならず、葉たばこ生産に関わる肥料・農薬から乾燥後の梱包作業まで、ユーザーの一連の生産活動の全域に関わって参りました。この姿勢は他の分野においても同様に培われております。例えば、当社が世界に誇る製品に青果物用蒸熱処理装置というものがあり輸出国における検疫処理装置として活用され、マンゴー・パパイ

ヤなどの輸出入に寄与しております。ここでも装置のみならず、果物生産現場圃場での育成状況、輸送環境の確認、蒸熱処理施設でのスタッフ・ワーカーの配置教育、処理後の対象物の取り扱い指導提案、施設管理の提案、検疫における政府間調整、青果物輸入商社とも深く関わっております。つまり、当社製品が活用されるフィールドを設置現場・工場といった狭い範囲に限定するのではなく、そのフィールドを大きくとらえ時間軸も加えたソリューションの一部に当社製品が運用されていると考え、どのようにすればその流れを円滑化することができるかを踏まえ、製品開発を進めております。

当社の基幹技術は、「熱(温度)」「蒸気(湿度)」「風(空気の流れ)」を管理することとしております。

その製品開発段階(低温度木材乾燥システムなど)において鹿児島県工業技術センターの皆様には大変お世話になっており、大局から微細に至るまでご助力いただいております。誠にありがとうございます。

今後上記基幹技術を軸に新たなフィールドに展開して参ります。乞うご期待。



環境負荷低減型コンテナバルク乾燥機



モジュール型青果物用蒸熱処理装置